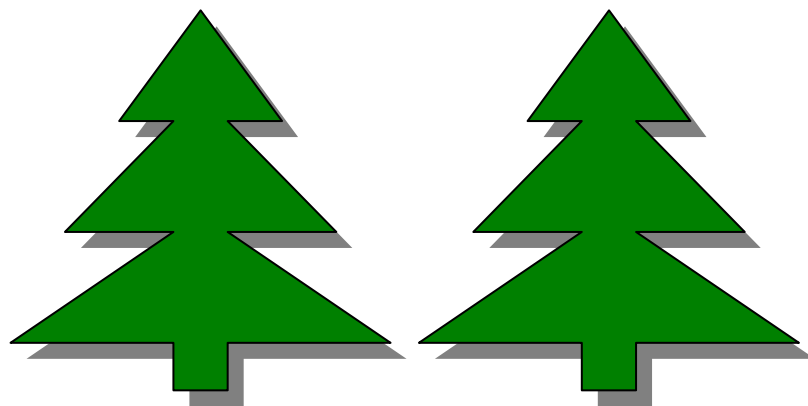
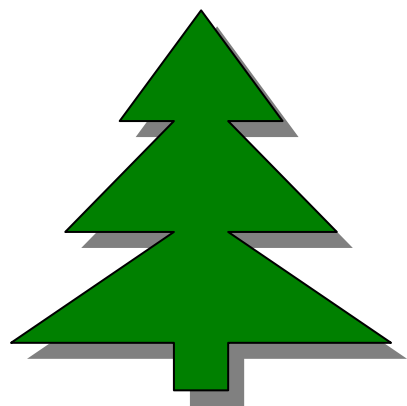


森づくり活動

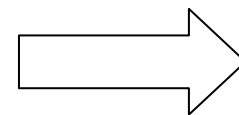
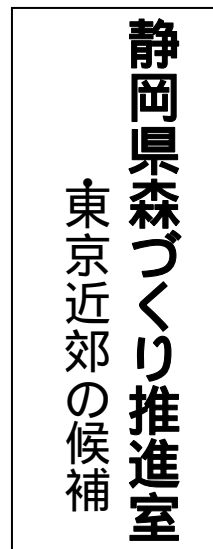
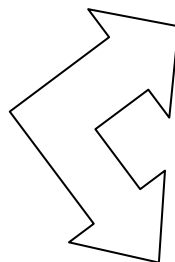
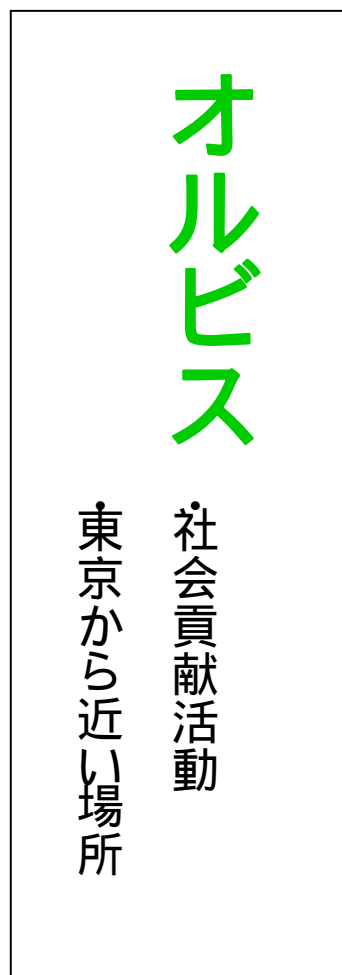
～ 企業・行政・OISCAの国内森づくり協働例～



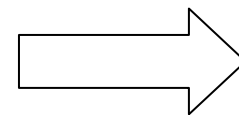
事例1 オルビスによる山梨での 森づくり



活動開始までの経緯



提案



見送り

活動地概要

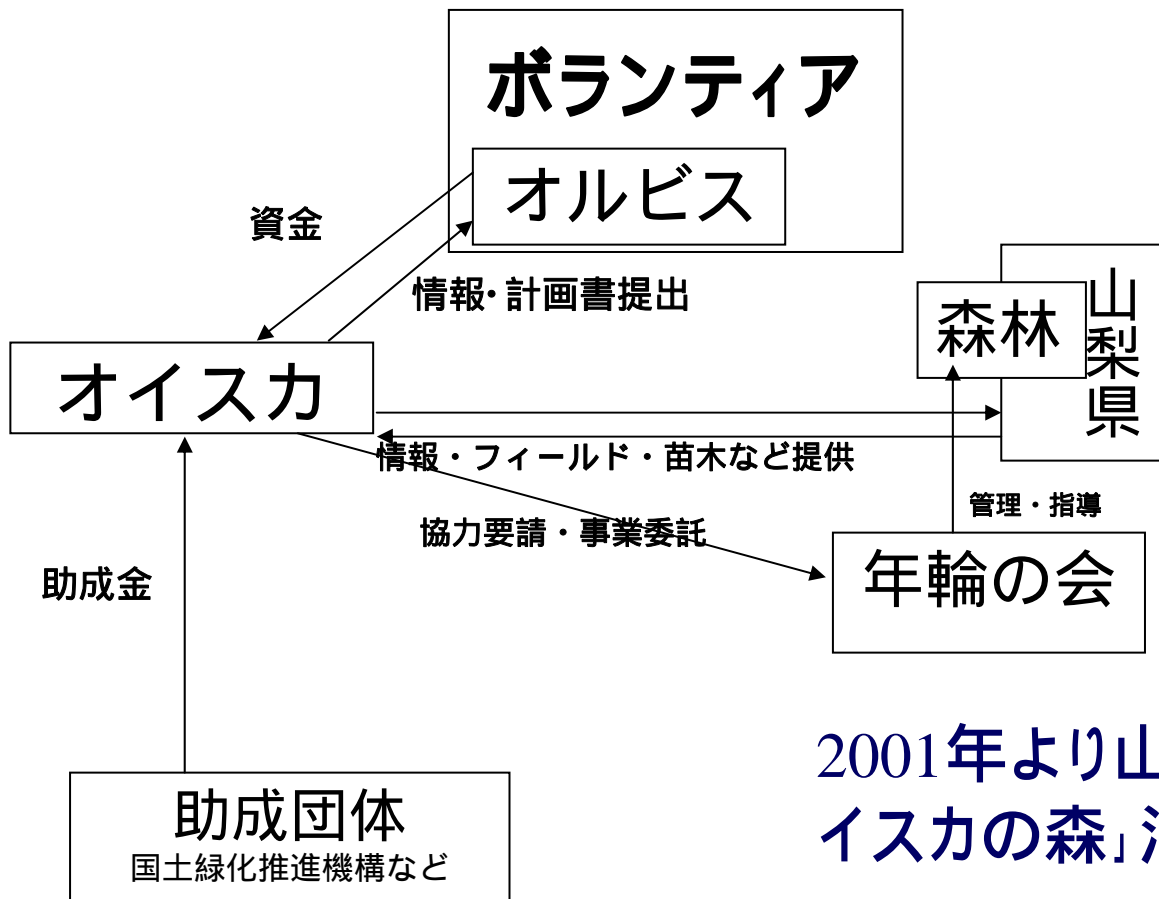


山梨県甲府市にある県有林
「武田の杜」内の4.22ha

比較的緩やかな斜面

この場所は以前よりサクラの植栽を行っており、松くい虫の被害にあったところを樹種転換をはかり、全体を市民の憩いの森として持続的に整備管理することを目的としている。さくらの他、アジサイ・ツツジなどの低木もふくめた森づくり

関係概略図



2001年より山梨県とオイスカとで「オイスカの森」活動開始。

2002年よりオルビス社がオイスカの森づくりに参画。資金とともにボランティアとして社員が参加。14年から25年までの10ヵ年計画としている。

活動歴

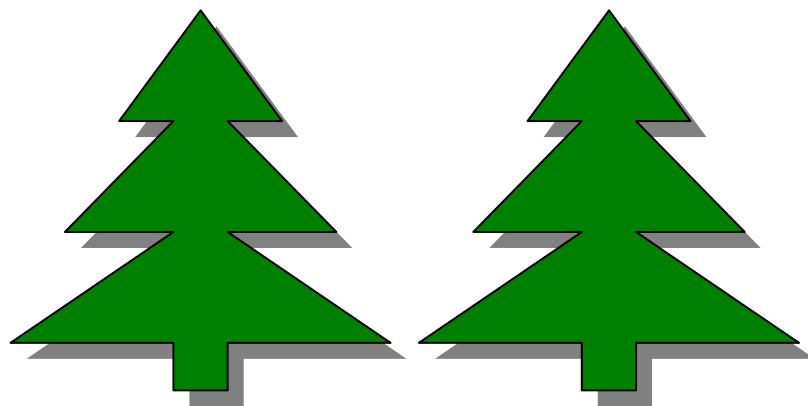
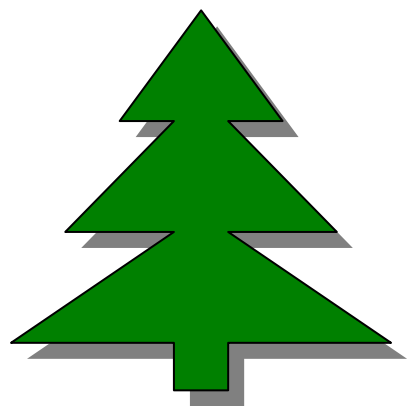
年度	作業	参加人数	樹種 本数
14年	植栽 下草刈り	117 87	サクラ200本、レンギョウ300本、コデマリ150本、アジサイ300本、ドウダンツツジ500本、ニシキギ210本、サザンカ60本
15年	植栽 下草刈り	213 80	サト桜400本、ドウダンツツジ500本、アジサイ1000本
16年	植栽・施肥 下草刈り	167 94	サト桜100本、カワズザクラ40本、アジサイ1000本 森のコンサート等レクリエーション
17年	植栽 下草刈り	190 120	カエデ30本、アジサイ1000本 森のコンサート等レクリエーション

13年度は松食い対策の県の事業にオイスカが植栽ボランティアとして協力

今後、18年度に植栽アジサイ1,000本、下刈り 2,3回

19年度から25年度は下刈り2回 その他の森を楽しむイベントの開催を予定

事例2 HONDAによる 多摩川源流での森づくり

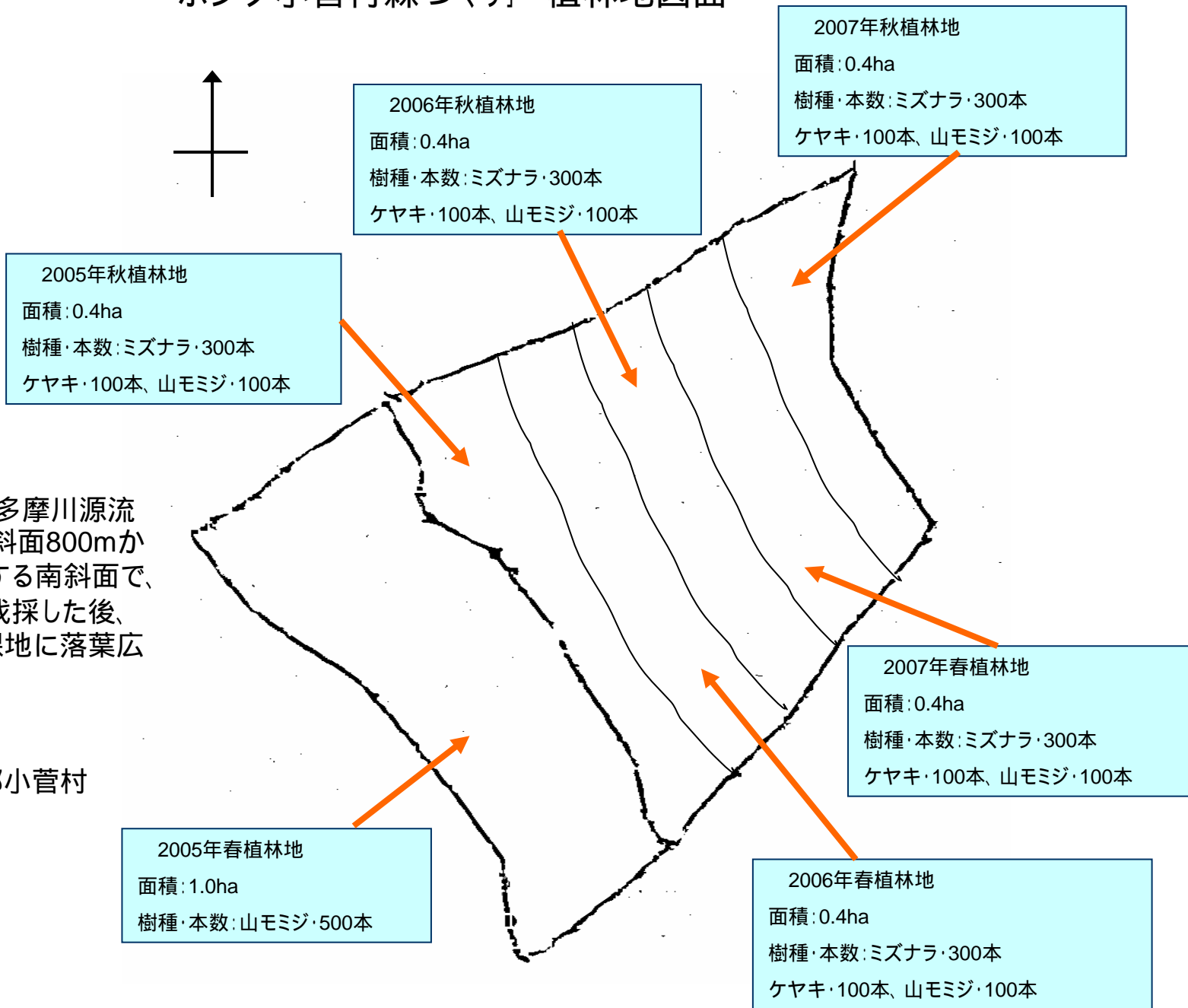
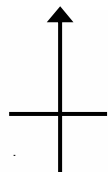


HONDA・小菅村・OISCA 「多摩川源流森林保全7年計画」

- 実施期間**：2005年～2011年 7ヵ年
- 植栽箇所**：山梨県小菅村 村有林(3.0ha)
- 活動内容**：植林・下草刈り・間伐
- 植栽樹種**：モミジやミズナラ等の落葉広葉樹を植林することで、水源涵養機能の高い森を育成
- 参加者**：本田技研工業(株)社員及び村民・北都留森林組合などが年2～3回程度の活動を実施。
- 看板名**：ホンダの森
- *オイスカは本活動全般をコーディネートする。



「ホンダ小菅村森づくり」 植林地図面



植林地概要

:東京都の水源、多摩川源流域の小菅川北側斜面800mから1000mに位置する南斜面で、平成元年に杉を伐採した後、放置されていた裸地に落葉広葉樹を植林する。

所有

:山梨県北都留郡小菅村

面積

:3.0ha





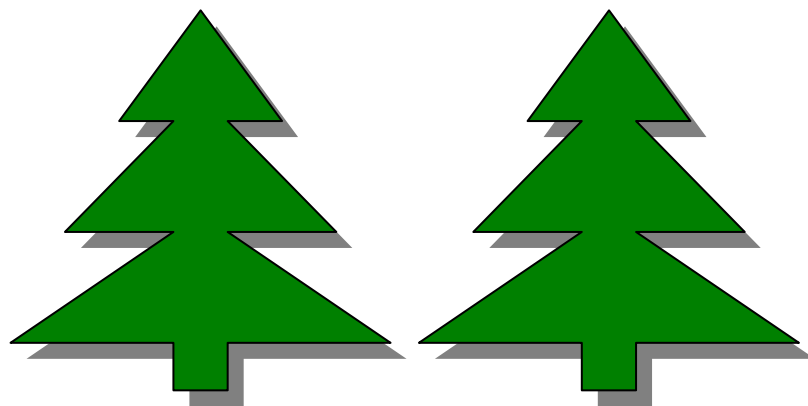
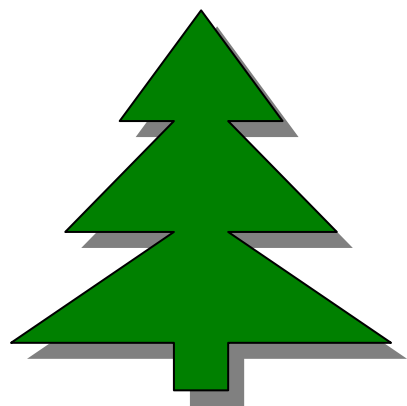
鹿の食害から苗木を守る。





事例3 S社(食品スーパー)の取組み

首都圏の水源地域(丹波山村)での森づくり活動
間伐材によって作られたつみ木の普及活動



「首都圏の水源地域(丹波山村)での森づくり活動」

< S社からの活動内容の要望 >

食品事業とリンクした環境保全活動を行いたい。

水の安全 水環境の保全 **森林整備**

< 「森づくり」活動の概要 >

実施期間: 2006年 ~ 2010年 5カ年

整備箇所: 山梨県丹波山村 村有林

活動内容: **間伐を主にした森林整備**

社員, お客様を対象に年1 ~ 2回の森づくり体験活動を開催



丹波山村の現場

間伐作業



「間伐材によって作られたつみ木の普及活動」

< 活動の目的 >

「子ども達の創造性と協調性を育む」

「環境教育」：森の恵みを子ども達にプレゼント。木の香り、感触を感じてもらう。 森に興味をもつ第一歩

「森づくり活動」：間伐材の有効利用



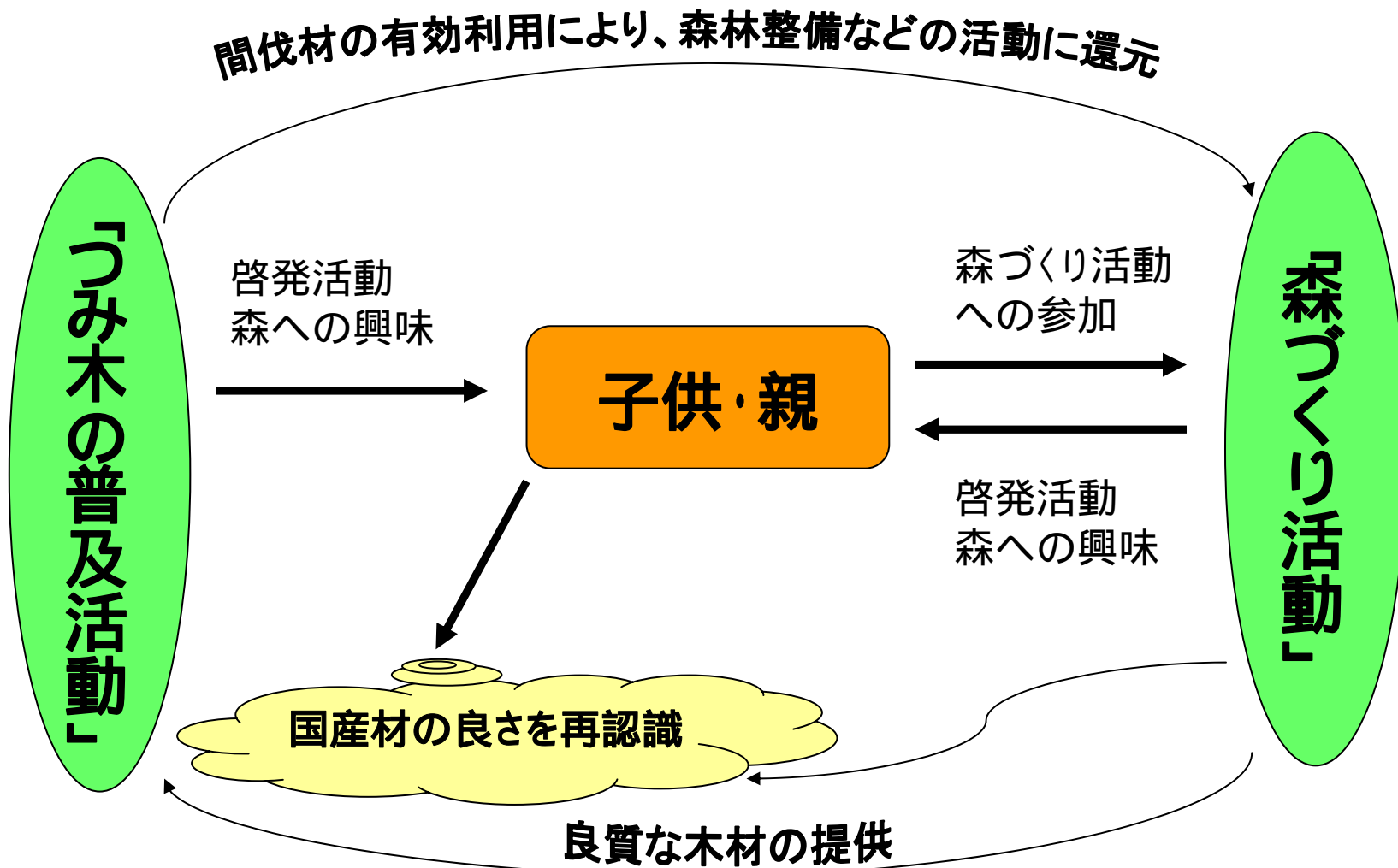
つみ木のシャワー。木の香り、ぬくもりを感じる。



子供たちの創造力は豊か！

みんなの作品をつなげて「つみ木王国」の完成！

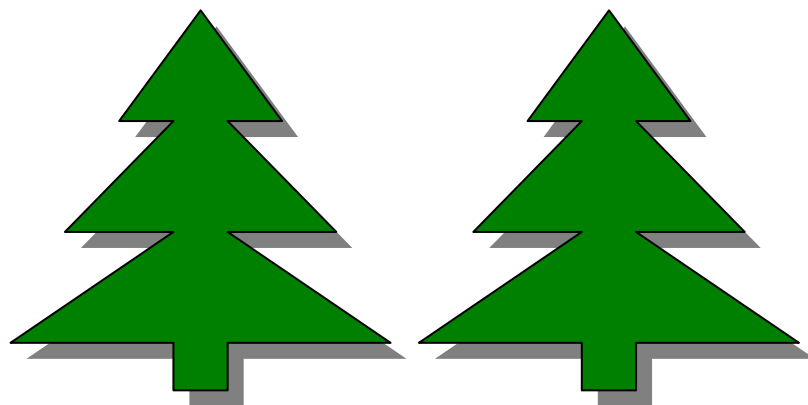
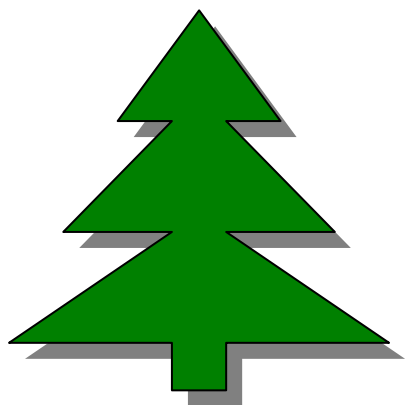
「森づくり」と「つみ木の普及活動」の相乗効果！



事例4 松下電器産業(株)の取組み

学校林整備活動

学校林を活用した普及啓発活動



整備前

甲府市立 北中学校



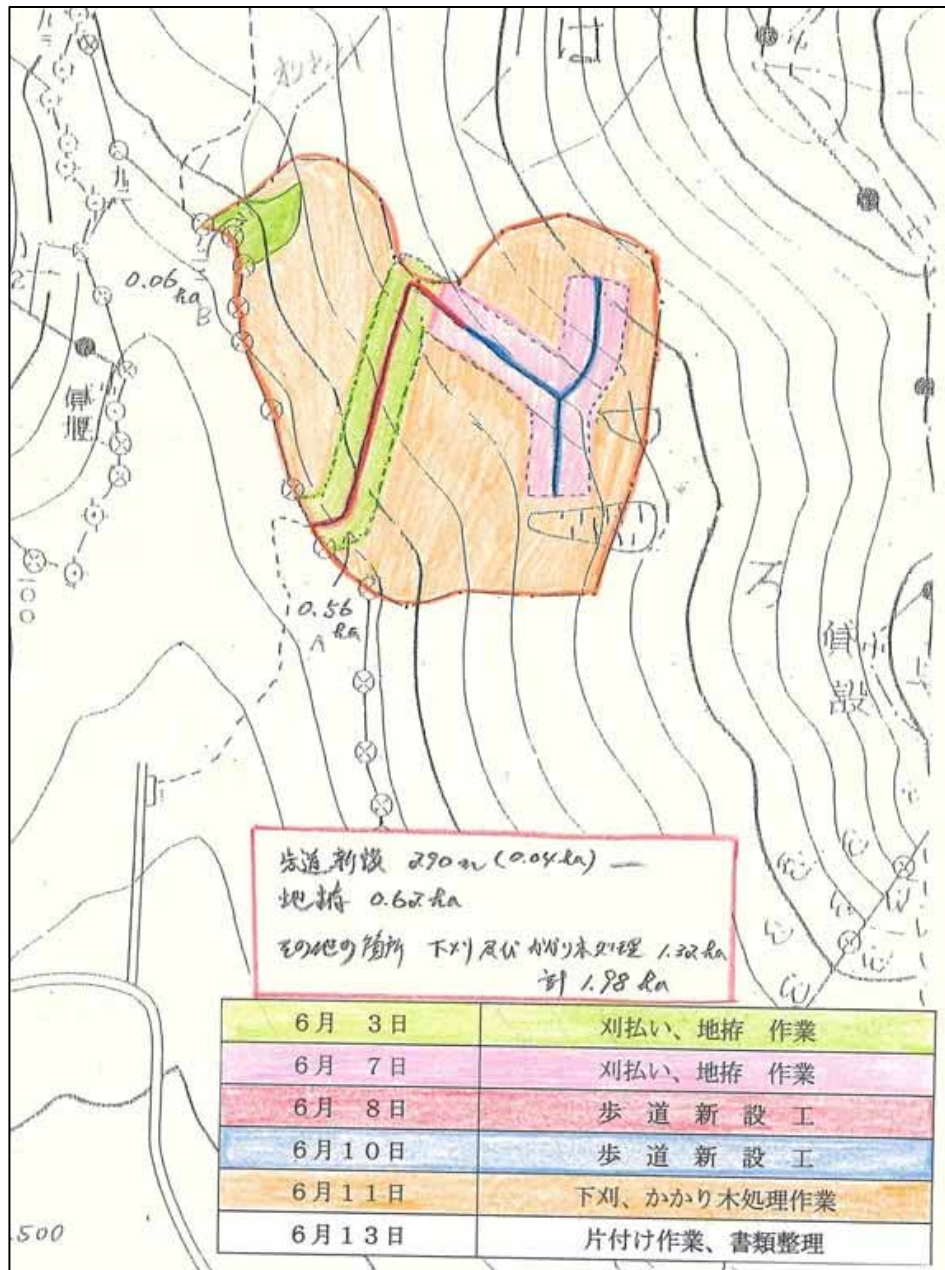
北中学校学校林は51年生のヒノキとアカマツからなる森で、面積は1.98ha。

整備前の学校林は雑草やツタが茂り、立枯れた木も多く、生徒が入るには危険な状態。

そのため学校林活動を開始する前に、松下電器産業(株)より支援を頂き、林野庁山梨森林管理事務所の指導のもと森林整備を実施した。



整備計画



森林整備は下刈り及びかかり木処理、地拵え、歩道新設からなり、約10日間をかけ山梨森林管理事務所の指導により業者が実施した。

下刈り及びかかり木処理では、図中オレンジ色部分の笹や雑草を刈り払うとともに、松くい虫などによって枯れた木などを伐採した。但し、広葉樹などの稚樹については残した。

図中ミドリ、ピンク部分は歩道新設のための地拵え(幅20m)を行ない、赤、青線部分に計290mの歩道を新設した。

このような整備を経て、学校林を森林環境教育の場として安全に使用できるようになる。

整備作業



下刈りでは、笹や雑草など胸の高さの位置で直径6cm未満の立木はすべて刈り払うが、カシやコナラ、ホウノキ、カエデなどの広葉樹は伐採せずに残した。また、地上から3mの高さまでの枝打ちを実施した。



歩道作りの様子

整備作業



松くいで枯れた木などは非常に危険なため、伐採し玉切りにした状態で集積した。



学校林活動

初めて森の中に入ると
いう生徒も多い。



山梨森林管理事務所の方より北中学校の
学校林の歴史、森林と人との関わり、森林
がいかにか地球温暖化ガスを吸収しているか
などの説明を受けた。

森のコンサート



トトロのテーマソングや「赤とんぼ」、「星に願いを」などを演奏した。
また、児童によるディジュリドゥの体験演奏も行なわれた。

パネルトーク



山梨県森林総研清藤副所長の基調講演後、パネルトークを実施。

ハネリスト: 太田茂(林野庁山梨森林管理事務所流域管理調整官)

佐々木正文(上野原小学校教頭)

清藤城宏(山梨県森林総合研究所副所長)

寺沢恵治(山梨県大月林務環境部部長)

船木示一(北都留森林組合利用係長)

日塔憲夫(松下電器産業㈱社会文化グループ副参事)

コーディネーター: 田中美津江(オイスカ山梨県支部)

整備終了後



整備終了後は林床がきれいになり、整備前は光の無い林内が明るくなった。約1mの幅の歩道も完成した。



学校林活動の広がり

平成12年、甲府市立北東中学校で初めてオイスカが学校林活動への取組みに参画 その後 松下電器(株)と協働



平成14年には、甲府市内4校、上野原小学校の整備に協力



現在、山梨だけでなく、愛知、東京、神奈川、兵庫などでも学校林への取組みを進めているまた「学校林を活用したふるさとづくりフォーラム」を各地で開催

オイスカの役割

